

大明小学校 校長室から

令和元年6月28日

No. 16

文責 校長 飯久保一男



ひとりぼっちに たじろがず

東京教育大学（現在の筑波大）教授，立教大学教授を経て，都留文科大学学長を務めた教育者，上田薫先生の言葉です。上田先生の理論を実践している静岡県の安東小学校の子どもたちに上田先生が贈った言葉です。

(前略…)

道はたとい遠く険なるも
英志 りんとして つねに 君らしくあれ
ひとりぼっちに たじろがず

自分だけ周りと違って，一人になってしまうことがあります。子どもによっては，恐ろしいこと，恥ずかしいこと，みっともないことと思うかもしれません。大人でもそんな気分になることもあります。それで自分らしさをなくすなら，一人ぼっちになっても堂々と自分らしくいなさいという意味だと受けとっています。

本校の学校教育目標は，「自ら考え 活動する 心豊かな子ども」の育成です。今年度と来年度は，南アルプス市より「学びの質を高める授業づくり推進事業」の研究指定校に指定されています。1月にはその研究の成果を公開研究会を開催して発表する計画です。この研究に取り組むことは，学校教育目標の実現のための大きな一歩となります。一昨日は，下校時刻を早め，第1回目の授業研究会を行い，6年1組の子どもたちに残ってもらい，授業をしました。西条小の校長先生を指導・助言者に迎え，甲西中，南湖小の先生方も参観する中，本校全職員も参観し，6年1組の授業をもとに，学び合い，研究を深めることができました。

研究を通して求める授業は「子どもたちが自分の考えを表現し，出し合い，学び合う授業」をめざしていくことを確認しています。こういう考えを出し合う授業の中では，自分の考えと周りの考えが違うことが多くあります。そして，自分が一人だけ違う考えのときもあります。しかし，その自分の考えが「根拠をもって」「こだわっている」ものであれば，一人でもたじろがずに，自分の考えを発表し，周りに訴えかけていけると思うのです。その姿勢は，授業を深め，広げていく推進力になります。また，その力が「本物の学力」ともいえるのです。



日本には昔から，周りと違うことをよしとしない風潮があり，いろいろなことを「そろえる」ことが好きな国民性があります。

…もちろん，集団で生活する中には，そろえなければならないことはたくさんありますし，

それが逆に日本のいいところである場合も多いのですが…。

でも，一人一人が違う人間なのですから，周りと違うことを恐れる必要はありません。「一人一人が違うからいい」のです。

本校の教職員は，クラスや学年の団結を高めることや，学年や学校のまとまりをつくることに取り組んでいます。しかし，教育の目的はそれで終わりではありません。団結を高めたクラスをつくり，まとまりのある学年をつくる中で，一人一人が育っていくことが大きな目標です。一人を認め，一人を大切に，一人の考えに耳を傾ける集団になると，その集団の中の一人一人がまたさらに成長していきます。それがまた集団を高めることにもつながり，その中でまた一人一人が成長するという好循環のスパイラルが生まれます。

大明の子よ つねに 君らしくあれ ひとりぼっちに たじろがず

と伝えていきたいと思えます。

授業は楽しい

私の経歴を少しだけ（ちょっと多いかなあ、自慢になりませんように…）書かせてもらいます。

小学校の教員も専門の教科の一つはもっています。大学の入学試験のときに、希望の教科を書く欄があり、私の場合、第一希望に理科、第二希望は〇〇科、第三希望は□□科、第四希望に図工・美術科を書きました。試験のデキが悪かったのか、第四希望の図工・美術科で合格しました。二次試験（共通一次・二次試験ってご存知ですか？）は化学で受けのですが…。第四希望の教科でしたが、大学4年間、図工・美術の修業をみっちり積み、それなりのものはできるようになりました。

教員になってからは、算数・数学研究会に所属し、中巨摩の責任者・全国教育研究会の司会などをしましたので、私を算数・数学専門の教員だと思う人もいます。また、教務主任などの担任ではないときは理科を受けもつことが多く、理科の実践を多くしましたので、理科専門と思う人もいます。加えて、ミニバスの指導を長くやっていますので、体育専門だと思う人もいます。どっこい図工・美術が専門です。これに驚く人もいます。現に、6年担任が、その日の図工の授業にスペシャルティーチャーが来ると言い、誰だと思いか尋ねたとき、6年生から私の名前は出てこなかったそうです。

担任がもてなくなり、授業ができなくなって、授業をしたいなあと思うています。授業中に校内をブラブラ…と歩いていても授業のできる担任はいいなあと思うことが多くあります。そんな私に、6年生の図工の授業をやってほしいという依頼が舞い込みました。うれしくてうれしくて…。早速、パワーポイントで動くスライドをつくり、準備万端、授業を待ち構えました。…ところが、他のクラスの外国語の授業と重なり、

電子黒板がそちらに取られ、パワーポイントも使えなくなりました…

校長たるもの、自ら率先して、表に書いたように、子どもたちが考えを出し合う授業を仕組むべきですが、パワーポイントが使えない中、また、子どもたちの制作の時間を多くとってやりたいと思う中、昔ながらに、黒板を使い、長年鍛えたしゃべりの技術(?)で、6年生に説明をしていきました。6年生だけあって、私の一方的なしゃべりの授業にも耐え、制作に入ると私の指導した内容を汲んでくれ、いい感じの作品になりそうな予感がしています。

6年生とは、修学旅行も一緒に行き、球技会の取り組みでもバスケの指導や審判をした関係ですが、授業をしてみると、それらのときと少し感触が違うのです。一言でいうと、素直でかわいいのです。6年生にかわいいなどという怒られそうですが、

- ・私の話にうなずいてくれたり、くだらないジョークに笑ってくれたり…
- ・私が黒板にかいた絵を消さないでとっておきたいと言ってくれたり…
- ・個人個人に指導していくと素直な態度で反応してくれたり… など

6年生なりのかわいさがあるのです。

今年度の学校経営方針の一つに

教師は授業で勝負をするという気迫をもった教師力

を掲げました。教師の一番の仕事は授業です。授業がいい加減な教師にいいクラスはつくれません。そして、授業の場は、教師が力を発揮する場であるとともに、子どもを理解する一番の場です。そのことを再確認できた6年生との授業です。まだ現在進行形です。

図工・美術の教師にとって、図工・美術のよさ・すごさを実感でき、そして、ホッとする言葉です。

中学の美術担任が授業でこう言った。

「英語ができると17億人に伝わるけど、絵がうまいと70億人に伝わるんだ。」

休み時間に絵ばかり描いていた私を冷やかす人がいなくなった。

